

(追悼文)

学生相談室長を偲んで

日本医科大学学生相談室専任カウンセラー

鋤柄のぞみ

野村先生と私が出会ったのは2008年であった。2020年3月に退官されるまで、医療心理学教室教授としての教育及び研究をはじめ、附属病院やクリニックなどでの臨床活動、本学の校医、他学の嘱託医、認知症相談センターなど、学内外で様々な役割を担っていた方なので、それぞれの関係者だけが知る先生の姿や先生との対話があったと思う。私が主に接していたのは学生相談室室長としての先生であった。なので、題名には「学生相談室長」と書いている。

野村先生は、日本医科大学出身、かつ精神科医としては初めての相談室長である（初代室長は臨床心理士の心理学准教授）。私にとっても医師が上司というのは初めてだったが、心理職のスタンスや在り方を説明せずとも理解し、カウンセラーの個性とやり方を尊重してもらえているという安心感が早いうちからあった。先生に感謝することのひとつである。精神科医療等で臨床心理士が日常にいたのもあろうが、先生自身も、医学部入学前に臨床心理士として働いていたのも関係するかもしれない。精神科医としての医療的知見はもちろんのこと、医学生時代の経験談や教員同士のネットワークなどでカウンセリングを助けてもらっていた。先生自身も学生と保護者の相談に直接応じていたし、学生について教職員とよく協働していた姿を覚えている。学生と保護者の相談に応じる際の多重役割、例えば、教育的指導と評価、時には処分を判断する教員であると同時に、それらは一切せず共感と受容を柱にする学生相談室室長でもあるという苦労を先生がこぼしていた記憶もある。学生はどちらを（どちらも）求めて先生に相談していたのだろうか。メンタルヘルスを専門家に頼った経験を公にしたがる医学生はあまりいないが、OBとして身近に感じ、守秘に固い野村先生に相談することでメンタル上の問題を乗り切った学生は少なくないはずである。彼らの心のなかに野村先生が生きていてくれることを願っている。

学生相談室とカウンセラーの職域等をいろいろなものから守って下さっていたことも野村先生に感謝したい。ネガティブで厳しい話はカウンセラーに直接届けないようにしてくれていたことを含め、まさに盾になってくれていたことを、第三者から聞いたり、感じたりしたことがあった。おかげで今も学生相談室が続いているのだと思う。専任カウンセラーとしては不十分で頼りない私のペースや自由も尊重してくれていたが、そのためにかけた迷惑や心配等があった。今では後悔と心苦しさを感している。多忙を極めた先生とのコミュニケーション機会は限られていて、疲労が明らかに見られるときもあった。遠慮等から相談事を遅らせひとりで抱えてしまう傾向が私にはあり、結果として厳しいお叱りをいただく出来事があった。ただ、私が相談や報告をしにくい理由として自分の態度や言動があるなら、改めるべきこととして聞くので言ってほしい、といった旨のメールを翌日にいただいた。もっぱら自分自身の反省と気持ちの整理に精一杯で恐縮していた私は何も言えなかったが…、自分自身の反省点を部下に問う姿に驚いた記憶がある。

野村先生の発案で始まり、今も続けている学生相談室の企画に「医療映画を観る会」があり、学生相談室には先生から預かったDVDの数々がある。1学年セミナーも医療・医学にまつわる映画を題材にしていた。出席し、感想を皆でシェアすればいいセミナーは学生には気楽であっただろう。実際、心身とも息抜きにあててほしい思いが先生にはあったようである。しかし同時に、勉強等で思考優位になりがちで若い学生が、様々な世代や環境を生きる人々の心情に触れ、心を揺らす体験や視野を広げる教材という目的でも映画を選んでいたと思う。症状等の描写が正確な作品なら当然学びにもなる。先生から譲り受けた作品とともに学生相談室企画の映画鑑賞会は大事にしていきたいと思う。

他に、私が野村先生との関係で触れておきたいこととして、私を非常勤カウンセラーから専任にいただいたこととマインドフルネスとセルフコンパッションとの出会いがある。学生相談室第27号（令和3年度年報）にも書いたが、両方とも野村先生に声をかけていただいたことで叶った出来事であり、あれから11年も経っていて懐かしく感じている。

私が先生著作の『刑務所の精神科医』（2021）を入手したのは訃報を聞いた後であり、しばらくのあいだは、どういった気持ちで読んだらいいのかわからず

本棚に置いたままになっていた。今夏に一気に読んだ。もっと読みたくなり、裏話や、次回作の構想を聞いてみたくなったが叶わない。残念である。現在の相談室長をはじめ、野村先生を知る人々と時々先生について話すことがあるが、こうして追悼文を書くことで思い出が整理されていく心地がした。その最後に改めて、生前のご厚情に感謝申し上げたい。ありがとうございました。